

登録コード:MH429400 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	事例研究法演習【20M以降】 Clinical Reasoning for Fieldwork		
担当教員	務臺 均 他 保健学科作業療法学専攻全教員		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	作業療法学専攻/4年 後期(集中) 集中・不定期		
単位数、講義室	2 単位	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	授業の達成目標	
	MH20カリ・保健		
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。	作業療法士として、論理的な事例報告書を作成する能力を修得する。他者の事例報告に対する合理的な批判能力を修得する。	
	MH25カリ・保健・作業、MH23カリ・保健・作業		
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	臨床実習および学内実習で習得した作業療法評価・治療・地域支援に関する専門的知識と技能を統合し、論理的かつ適切な事例報告書を作成することができる。	
授業で学べる「テーマ」	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	担当した事例に対して科学的根拠と高い倫理観に基づいた深い考察を行い、その臨床プロセスを客観的に言語化・報告する一連の過程を通して、臨床家として生涯にわたり課題解決に取り組む探究心を身につけている。	
	その他		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	臨床実習Ⅰ、の各期の終了後に集中で実施する。臨床家として事例研究の実際に慣れるために、日本作業療法士協会の「事例報告登録制度」の手引きにそって事例報告書を作成します。事例報告書は、2年次と3年次に実施する作業療法評価学実習、作業療法治療学実習および地域作業療法学実習で得た知識と経験に基づき、臨床実習での経験を事例報告書にまとめます。10月中の完成を目指します。 実習・事例報告会では、身体障害、発達障害、高齢期、精神障害の各領域毎に、担当教員が医療施設における作業療法士としての実務経験を活かして指導・助言します。		
授業計画	1) 臨床実習Ⅰ、のそれぞれの実習が終了後に事例報告の作成を開始する。実習中から作成してもよい。 2) 完成後随時、担任（今年度は小林）に提出する。 3) 事例報告集を作成し、他の学生の報告についても閲覧し学修する。		
授業の進め方	1) 実習中に関わった症例1例を選定し、日本作業療法士協会の「事例報告登録制度」の事例報告書作成に必要な情報収集を行う。 2) 実習終了後、日本作業療法士協会の「事例報告登録制度」の手引きにそって作成する。 作成にあたっては、各領域の担当教員の指導を受ける。 実習中から作成を始めてよいが、実習中はあくまでも臨床現場における対象者とのやり取りに重点を置いてください。実習中はくれぐれも事例報告作成に時間をかけすぎることがないようにしてください。 授業終了時に、授業アンケートを実施する。		
テキスト、教材、参考書	日本作業療法士協会事例報告システムの手引きとフォームを資料として配付する。		
成績評価の方法	提出された事例報告書 2 つをそれぞれ100点満点で採点し、合計点を100点に換算して判定する。 「日本作業療法士協会の「事例報告登録制度」の手引きを用いて、事例報告を作成するにあたって、以下の項目について、適切に記載できているかどうかで判断する。 報告の目的、事例紹介、作業療法評価、介入の基本方針、作業療法実施計画、介入経過、結果、考察、文献。		
成績評価の基準	成績評価の判定基準は、以下の通りとします。 90-100点：秀，80-89点：優，70-79点：良，60-69点：可 実際に行った評価や情報を統合してレポート作成できれば「水準にある（可）」，解釈に偏りがなく整合性のある考察が述べられれば「やや上にあ（良）」，介入のリーズニングとその成果が十分説明されていれば「かなり上にある（優）」，独創的，新規的な介入が実施され，対象者の生活機能の改善が示されていれば「卓越している（秀）」と判定します。		
事前事後学習の内容	【事前学習】 事例登録のフォームを事前学習しておく。 【事後学習】 事例報告集を読み，他の事例についての理解を深める。 本授業の単位修得には90時間の学習が必要です。 事例報告書作成60時間+報告会（フィードバック）30時間		
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	臨床実習の進行につれて，症例（事例）報告の要領が徐々につかめてくると思う。それぞれの領域で担当した患者さんと実習生とのやりとりが，生き生きと想像できるような報告		

学生へのメッセージ並びに質問 ，相談への対応	を心がけてほしい．また，他者の発表する事例報告からも，作業療法臨床の知・技をできるだけ多く学んでほしい． 質問への対応：務台 均 hitmutai@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時（メールでのアポイントを取ってください．）
-----------------------------------	--